
私たちのcolor

colorful

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私たちのcolor

【Nコード】

N1911X

【作者名】

colorful

【あらすじ】

中学生6人の日常生活です

駄文ですが国語の成績3なりに頑張って書いています

紹介します（前書き）

読んでくださるのですか？？
ありがとうございます

紹介します

子供の頃に「無」になってしまった少女とその双子の弟。

そして、幼馴染4人のへんてこなお話。

小さな頃との変化と大きくなってからの後悔。
守ろうとして行った事に対するみんなの反応。
まだ小さいのだと感じさせられる。

6人の夢と友情、恋。

変わろうとしても変われない心と関係に

6人はどうするのか・・・？

（多分）涙あり・・・感動ありの

「私たちのcolor」

中学生たちのちよつと変わった日常生活です。

自分と重ねてみてください

紹介します（後書き）

ぜひつづきも！！

入学！

「じりじりじりっ・・・」

「かちっ」

目覚まし時計を止めるとムクリと起き上がる。

少女は起き上がると大きくあくびをした。

少女の名前は「佐藤百合」

今日からピツカピカの中学一年生。

リビングに行くとお母さんとお父さんがすでにいた。

「お早う」

といわれると、百合は元気に

「お早う」

と応えた。

朝ごはんの用意が整うと百合は髪を結わいて席に着いた。

「まだ圭は寝てるの??」

お母さんに言うと

「じゃあ、その味噌汁を飲む前に起こしてあげて」

と返された。

百合は結局全部平らげてから圭と呼ばれる人のもとに行った。

「起きないと駄目でしょう!!」

とその少年を5分揺すぶると少年はやつと目を覚まし起き上がった。

顔の整っているその少年は起きると階段を降りていった・・・が

途中で踏み外し落ちた。

入学！（後書き）

やっとかけたあ！！
達成感です

次こそ入学！！（前書き）

やっと入学すると思います

というか入学させなくては><

ぜひよんであげてください！！

次こそ入学！！

下の階からお母さんとお父さんの笑い声が聞こえる・・・

我ながら息子が落ちたのに親に心配されないで笑われる弟が哀れだ
と思う・・・

しかも弟は私に向かい笑顔で

「いつもどおり、これですっきり目が覚めたよ。ははは・・・。」
という。

時計を見ると6：50だった。

圭はオレンジジュースを飲んでサンドウィッチを食べている。

この家は変わっているらしく、朝食は百合とお父さんがご飯派でお
母さんと圭がパン派である。

だが、お母さんの寝坊でたびたび朝食が全員パンになる事もある。

圭と百合は食事と着替え、歯磨きを終わると制服姿でリュックを背
負った。

お母さんに

「二人とも似合ってるわよ。」

といわれ家を出た。

そう、今日は篠原中学校の入学式なのである。

あるマンションのエントランスへ行くと4人の男女がいた。

「おはよう。ごめんね、遅れたかな?？」

百合が言つと一番左の少女が

「うっん、平気だよ。今ね、ながれ流とゆきあ雪亜がね、圭の真似してたの!！」

すると一番右の少年とその左隣の少女が

「実湖!！」

といった。

きつと二人が流と雪亜なのだろう。

そして実湖が百合に話しかけた子だろう。

この会話に入らずに圭と話している少年は圭に

「?、時間大丈夫かな?？」

と聞かれ時計を見てみんなに

「そろそろ行こう!！」

と呼びかけた。

クラス分けの紙を見ると

3組が百合と？と雪亜と流で、5組が圭と実湖だった。

それぞれのクラスへ行き体育館へ移動すると長い校長先生らの話になった。

入学式が終わりクラスに戻る。

百合は小さな声で

「やっと終わった」

とつぶやいた。

次こそ入学！！（後書き）

肩こったかものです。

どうだったでしょうか？

結構無理やりですが入学式終了です。

教室（前書き）

第三者の視点。

ちようせんします><

教室

入学式が終わった百合は教室にいた。

前後の席の子は知らない子達だった。

右隣の席は流で、斜め左の席には？だ。

百合は4列目の前から2番目の席だった。

そして6列目の一番後ろ（前から5番目）の席には雪亜がいた。

百合は早く挨拶を終えて帰りがついていた。

今日は？の誕生日でパーティーを開く予定だからだ。

先生が何を言っているのか頭の中には入っていない百合はハッと我にかえり途中から先生の話を聞いた。

「・・・というわけで、明日から部活動見学が始まります。体験は来週からです。それから・・・

えっと・・・ああそういえば、明日は係り決めや委員会決め、自己紹介をクラスで行うので皆さん筆記用具は持ってきてね。当たり前ですが。では終わりにします。きりーっ、気をつけ、れい。さようなら」

担任の先生の号令でみんな帰る準備を始めたおしゃべりを始める。

百合も荷物を背負う格好になる。

すると

「百合ッ！！」

という実湖の声が廊下から聞こえてきた。

勿論、圭も一緒だった。

百合が廊下に出ると雪亜と流も続いた。

？の姿は見当たらなかった。

あ・・・あれは!?(前書き)

こんにちは^^

楽しんでいただけると光栄です!

あ・・・あれは！？

校門を出た？以外の5人。

百合は隣にいる圭に小さな声で聞いた。

「本当に？をさがさないでいいの？」

圭は頷く。

圭は？のいないわけを知っていた。

だが、百合が聞いたらショックを受けるかもしれないと思い言わなかった。

（？は呼び出されていた。

小学校が同じだった女の子に。

多分告白をされるのだろう。

百合自身が気がついていいるのかは知らないが、百合は？のことが好きなのだ。

？も百合の事が・・・多分好きなのだと思う。）

圭は一人そんな事を考えていた。

「？視点」

入学式がやっと終わった ← ←

「あ．．．あの高橋君。

高橋？期君ですよ。

覚えてますか？

しのだありか
篠田有加です。

帰りの会が終わったなら、校門出てすぐその公園に来てください。
待ってます。」

．．．．．

最悪だ。

今日は何も話しかけられることは無いと油断してた。

「オイッ！」

後ろを振り返ると圭が怖い顔をして俺を見ていた。

「な．．．何??？」

圭は呆れ顔になって俺に言う

「さき帰ってるぞ」

聞かれていたようだ。

百合の耳にはいらないと良いのだが。

>それから約1時間後<

俺は篠田さんに言われた通りに公園に来ていた。

篠田さんはすでにいた。

「あつー！高橋君！」

大きく手を振っている。

百合たちがここを通る前に移動しなくては。

「ちょっと、きて。」

少しは見えにくい建物の間に来た。

「で……何??お話って」

篠田さんは俺を見ながらもじもじしている。

正直、篠田さんのことは苦手だ。

「あのね。私と付き合ってもらえませんか？

去年からずっと好きだったの!!

だめ……かな？」

「……ごめんね。」

篠田さんの気持ちには応えられないんだ。」

謝って行こうとすると、そこには……!!

あ・・・あれは！？（後書き）

やっとかけたあー！！

告白シーン、ドキドキです。

皆さん！！

告白されたとき、告白したときの台詞をぜひ教えてください。

実は漫画のを真似しただけなので←

実体験のない私はこれしか出来ないの・・・。。。

告白されたことないのに告白シーン書くのがこんなに大変だとは。

あれれ？（前書き）

テスト終了

返却が怖いです

皆さんの学校では順位って発表されますか？

あれれ？

>？視点<

そこには・・・百合たち5人の通り過ぎる姿があった。
見られてしまったかもしれない。

俺は焦った。

すると篠田さんが

「そう・・・ですか。安心してください。百合さんたちには言いませんから。では・・・。」

と言って笑った。

でも彼女の目は笑っていなかった。

まるで百合たちに言ってやるとでもいうような笑顔だった。

篠田さんはお辞儀をして歩いていった。

俺はこの場から逃げ出すように歩いた。

しかし、歩くのが早かったのか目の前にはそう百合たちがいた。

>百合視点<

何で？いないんだろう？

あ・・・れ？

？がいる。

あ！！

ヤバイ、こっち向いちゃうよー！！

思いっきり目をそらすと圭が

「？どうかしたの・・・？」

と私をまっすぐ見てくる。

「あう・・・なんでもないよ。」

う・・・上手く笑えてるかな？

「まっげ長いな」

急に圭が言うので私はつい

「プ・・・クククククク」

笑いがと・・・止まらない。

「ゆ・・・百合どうしたの？急に！！」

雪亜と流がハモツたので私の笑いは止まらなくなってしまった。

みんなも笑い出してしまった。

あれ？（後書き）

後半コウがなかなか出てこないですが・・・
まあいつか^^

まだ帰り道（前書き）

お久しぶりです!!

危うく、スランプ中になりそうでした!!

それでは

ぜひぜひ楽しんでいてください^^

まだ帰り道

>百合視点<

何も聞こえない・・・

何も見えない・・・

何も感じない・・・

真っ暗で、音も風も何もない。

ああ、また・・・

「ジリリリリリ・・・」

あれ？

音がした。。

「エツ？」

何の音かと振り返ると、

そこには？がいた。

「だいじょうぶか？」

？は百合を覗き込みながら不安そうに言った。

何故だろうか。

こんなにも誰かの声が暖かく感じられるなんて・・・

「百合？ジリリの音聞こえた？」

俺が言っただけで、気づいた？」

あ・・・れ？

涙が・・・

止まらない・・・

「百合どうしたんだよ。

何でないてるんだよ？」

まだ帰り道（後書き）

妙な終わり方で申し訳ありません!!
次回も読んでいただけるとうれしくて泣いてしまいます（笑）
では

涙のわけ？（前書き）

百合の涙のわけとは何でしょうか？

さくさく書いていきますので、

さくさく読んでくださるとありがたいです。

涙のわけ？

> 第三者の視点 & a m p · 翌日 <

「百合・・・。。」

昨日のあの涙はもしかして・・・。」

？は一人教室で考えていた。

昨日の百合の涙についてだ。

百合はというと、考え込んでいる？をチラチラと見ていた。

「・・・さん。・・・さん！！・・・藤^{とう}さん！！」

百合は先生の声にハッと我に戻り、

「はい！！」

といった。

するとクラスの子みんなが笑った。

「な・・・なんか笑われてる！！」

流は百合に

「おま・・・お前じゃなくて。

加藤さんだぞ、呼ばれてたのは！！」

百合は顔を真っ赤にした。

？はそんな百合を見て微笑んだ。

？は今何をしている時間なのか分からず、

後ろの席の人に尋ねた。

「今って何してるの？」

？は声変わりしていないので、

少し高い声をしている。

ひそかにファンがその声を

「美しいソプラノ」

と呼んで騒いでいるらしい。

？の後ろにいる少年は

「自己紹介中だよ？」

聞いてなかったりした？」

と？に聞いた。

雪亜は小さなため息をついていた。

「やっぱり流は百合が・・・」

雪亜は口に出しそうになってしまったこの言葉をぐっと心の中にしまった。

百合は自己紹介が自分の番になったので立ち上がり、口を開いた。

「佐藤百合です。」

5組に双子の弟がいます。

入りたい部活は決まっています。

1年間よろしく願います。」

百合はそれを言い終え座ると息を吐いた。
すると先生が隣に来た。

「エッ！！なんかしちゃったかな、私？」

百合はそう思ったがちがった。

「しーらーとーりー君！！」

起きなさい~~~~~！！」

と流がたたき起こされた。

文字通りたたかれてる。

流は「グハッ」と言い目を覚ました。

みんなそれを見て

「この先生を怒らせたら怖いのだな！！」
と思った。

すると

“キーンコーンカーンコーン”

鐘が鳴った。

先生が号令をかけて1時間目が終わった。

流と？はたわいのない話をしていた。

百合は雪亜と話していたが雪亜はロッカーに忘れ物をしたため、と

りに行った。

その隙に？は百合のそばに行き

「百合？

あのさ・・・昨日のって、

もしかして、あいつの事思い出したのか？」

？がそういうと百合はキョトンとして

「・・・！！」

違うよー。

この話は・・・あの子の事は圭の前で話しちゃだめだからね！！」
？に言つとちょうど鐘が鳴った。

“キーンコーンカーンコーン”

涙のわけ？（後書き）

「あの子」の正体はそのうち分かります。

突然ですが、百合のプロフィールを紹介します。

名前：佐藤 百合

誕生日：6月21日

特徴：髪は栗色で肌が白い、パツチリ二重。

あまり日焼けしないで皮がむける。

前髪は特別分けたりしていない。

その他：過去に何かあったっぽい。

身長：157cm

体重：41kg

ついでに？のプロフィールも紹介しちゃいます！！

名前：高橋 ？

誕生日：4月8日

特徴：こげ茶色に金色の髪が混じっている、二重。

肌は普通。

髪はストレートで短すぎもせず、長すぎもしない無造作ヘアー

その他：モテます

身長：162cm

体重：50kg

以上です！！

ため息は恋の予感！？（前書き）

楽しんで頂けると幸いです。

ため息は恋の予感！？

「ハーイ、2時間目始めるよー。」

白鳥みたいに寝てるやつは締めるからね！！」

にこやかにこの言葉を言ったのは1・3担任の松村希美子先生。皆その言葉を聴き「ゴクリ」と音を鳴らし、つばを飲み込んだ。

「絶対に。間違っても寝ちゃだめだ！！」

この教室にいる全員の生徒が思った。

「さあて。佐藤さんまで終わったのよねっと。」

じゃあ次からどうぞ、自己紹介をしてね。」

百合はさっきの？の言葉を思い出した。

『あのさ…昨日のって、』

もしかして、あいつの事思い出したのか？』

「？は忘れてなかった。」

あの子のこと…良かった。

でも私、？に酷い言い方しちゃったなあ」

左斜め前にいる？を見ながら百合はそう思った。すると？がいきなり立ち上がった。

「高橋　？です。」

野里北小学校出身です。

今のところ、小説部に入りたいです。

これからよろしく！！」

？は笑顔でいい終えた。

？の笑顔が出た瞬間後ろの女の子が小さな声で「かつこいいい…。」

とつぶやいた。

百合はその声を聞くと胸がズキリと痛んだ。

百合はこの感情がいたい何なのか分からなかった。

しかし、この感情が小学5年生のときからあるものだと気づいて

いた。

雪亜は百合をじっと見ていた。

それは流が百合の事しか見ていないからだ。

雪亜は嫉妬している心をうまく隠していた。

しかし、このため息だけは隠せない。

「はあー。」

そして、自己紹介が自分の番になったのを確認し、席を立った。

「葉月^{はづき} 雪亜です。」

野里北小学校出身です。

音楽が好きです。

仲良くしてください」

少しはにかんで席に着いた雪亜はまた百合を見た。

視線には気づいていないようだった。

- - - 1年5組の教室 - - -

圭は自分の自己紹介を終えて席に着いた。

「本当だったらいいつも一緒にいるはずだったのに…」

俺のせいで…」

圭が考えていると前の席の人が振り向いてきて言った。

「あのさ…シャーペン貸してくんない？」

圭は我に帰ってシャーペンを貸し、自己紹介を聞いた。
ちょうど実湖の番になった。

「椎名^{しいな} 実湖です。」

よろしくお願いします。」

と簡単に挨拶をして座った。

すると、再び圭の前の人が振り向いた。

「今の子かわいいよな!!」

とわざわざ言ってきた。

圭はあいまいな返事をし、笑った。

圭は実湖が可愛いと思うが恋愛感情が湧かない。

「あいつに結局告れなかったなあ…」

ポツリと思った。

ため息は恋の予感！？（後書き）

「あいつ」という言葉が大量に出てきました。
ま、それはさて置きプロフィール書きます！！
今日は百合となにやら三角形の雪亜と流です。

名前：葉月 雪亜

誕生日：1月25日

特徴：髪の毛は黒い、二重です。

元気つこで、よくスキップしてるらしい。

身長：149cm

体重：何が何でも教えてくれない

性格：めんどくさがり屋です。

その他：流に片思い中

- - - - -
- - - - -
- - - - -

名前：白鳥 流

誕生日：10月31日「ハロウィン

特徴：髪の毛が短くて黒。

八重歯がある。

身長：158cm

体重：47kg

性格：皆で盛り上がるのが好きです。でも自分で盛り上げないと嫌なタイプです。

その他：百合に片思い中

雪亜に体重は聞かないであげて下さい。
それでは「3

部活はどうしてまじょうっ。(前書き)

こんにちは

読んでくださるとは、

この上ない幸せです!!

部活はどうしましょう？

「さようなら」

先生の声の後にみんなで言うと言った流は百合に話しかけた。

「百合は部活どうするんだよ」

雪亜は少しむすっとしながら百合の隣に来て、流に言った。

「百合は私と実湖と3人で部活見に行くんだよ」

流が何でお前が出て来るんだ、とでも言いたげな表情を見せた。そこに？がやってきた。

？は雪亜に

「どうしてそんなにむしゃくしゃしてんだよ？」

と問いかける。

雪亜はその問いかけに少し苦しそうな顔で？を見ると

「？には関係ないし！」

と言った。

百合は雪亜と？を互いに見合ったりしている。

そんなことをしていると、廊下から

「百合ー、雪亜ー」

と呼ぶ実湖と

「？ー、流ー」

と呼ぶ圭の声がした。

- - - - 百合視点 - - - -

？はいつたい何部に入るのかな？

私は？の顔を思い出しながら考えた。

それにしても嫌だなあ。

雪亜は不機嫌だし、実湖はなんかウキウキしてるし。

バランスがおかしいよ！！

あれなんだろう？

看板？

「ん？ねえ、この看板可愛い！！しかも部活名がおかしいよ！！」
私が言うと2人は

「本当だ」

とそれぞれ違うテンションで答えた。

私は二人に

「ここ行きたい！！」

と言うと、雪亜はそっけなく

「いいよ。」

と答え、実湖はニコニコしながら

「行く！」

と応えた。

この部活で私達の何かが変わった気がする。

でも、それを知るのはきつとまだ。

- - - - - ? 視点 - - - - -

俺は2人と一緒に小説部の見学中。

ここにはあこがれの先輩がいた。

某サイトで知り合った面白い先輩だ。

しかも、実際に会う先輩は超イケメンだった。

圭と流は小説部に入らないが俺はここに決めた。

入部届けをもらって小説部を出た。

次は圭と流の見たがっていた、あの不思議な名前の部活だ。

俺も少し興味がある。

俺はこの不思議な部と小説部のおかげで6人の関係がここまで変わる
とは、まだ知らなかった。

部活はどうしましょう？（後書き）

やっと書き終わったー！

謎がまだ多いのでつまらないかもしれませんが、この続きを知りたいのなら読んでください。

お願いしますm（――）m

それでは本日のプロフィールをどうぞ！

名前：佐藤 さとう 圭斗 けいと

誕生日：百合と同じ6月21日

特徴：髪の色はこげ茶で肌白です。

実はお父さんにで、イケメンです

向○理に似てる

身長：167cm

体重：58kg

性格：姉思い（シスコンではないです）で、優しく、頭良い方

その他：過去に何かある。

- - -
- - -
- - -

名前：椎名 実湖

誕生日：7月11日

特徴：髪の毛の色は金髪で肌の色は普通。

ハーフの影響で目は青い

身長：153cm

体重：39kg

性格：頭が6人の中で1番良い。怒ると物を投げるので凶暴。心は広いのに…。

その他：ハーフ。初恋がまだ

以上です!!
読むの疲れ様です

何この名前!! (前書き)

さーて!!

いよいよ変な部活名が登場します!!

期待はしないでください

ブヒッ!

何この名前！！

- - - - 百合視点 - - - -

えーっと… 体育館裏の部室にて？

体育館の裏に建物なんてあったわけ？

よし、実湖に聞いてみよう。

「実湖？体育館裏に建物なんてあったわけ？そこに部室があるらしいんだけど…。実湖？」

実湖はジツと何かを見ている。

なんかへんだなあ、と思っていると実湖は我に返って

「ああ、うん。なんかあったねえ。ずっと気になってたけど部室だったんだ、あれ。」

と言った。

何故か実湖の頬は薄紅色だった。

あえてその事については触れないで置く事にした。

雪亜は後悔したときの癖が出ていた、耳たぶをこする癖。

何に對してかは幼馴染でも分からない。

私達は無言で1階へと繋がるこの階段を降りていく。

すると雪亜が急に

「ねえ、百合はさあ。？と流のことをどう思う？」

と私に真剣な眼差しで見てくる。

「？のことはよくわからないの…。でも流の事は大切な友達であって幼馴染。もちろん？の事も大切だけど、なんか違うんだよね。」

本当に？の事は自分でも分からない。

大切なんだけど、皆や圭ともなんか違う。

「そっかあ。ねえ、体育館に行く道って右だったわけ？左だったわけ？」

悩んだりしているうちに1階についていた。

雪亜の質問には実湖が答えた。

「左だよん」

実湖は再び上機嫌に戻ったようだ。

しばらく歩いていると

「あー！在ったよ！」

扉を見ると部活名が書いてあった。

ピンクやブルーでカラフルに

「『color部の部・室です。』だつてさー。」

いつものテンションに戻った雪亜が言った。

そう、変な名前の部活とはcolor部という名前のこの部活。いつたい何部なのかな？

”キイー”と言う鈍い音を出すドアを開けた。

そこには黒い長い髪を持つ肌白の先輩と可愛らしいという印象を持たせる先輩がいた。

リボンの色が私たちのピンクではなく水色だった。

2年生だ！！

「こんにちは」

と言うと先輩たちは顔を見合わせ

「可愛い！！」

と私たちに抱きついてきた。

- - - - ? 視点 - - - -

俺が入部届けだと思っていたのは見学者用のパンフレットだった。小説部専用の。

俺たちは2階にある小説部の部室兼コンピューター室を出て階段を降りていた。

すると圭が真剣な顔で俺と流を見ていった。

「？と流はあいつの事忘れてないよな？」

百合と圭の前であいつの話をしてないって約束したばかりなのにー
！！！！

「あいつつてだ・・・！！」

俺は急いで誰かと聞こうとした流の口をふさいで口元でささやいた。

「馬鹿！！あいつって言ったらシオンの事だろうが！！」

圭は不審そうに

「???どうしたんだ？」

俺は焦って天井を一瞬見て首を振りながら答えた。

「別になんでもないよ。」

そうして手を離すと流が怒りながら俺を見て言う。

「?!?!前からお前には言いたい事があったんだよ！お前は百合の事どう思ってるんだ？」

…。

「どうってお前、皆も大切だけどなんか違うつつつか…んーよくわかんないけど特別な？」

圭は俺を驚いた表情で見ている。

流は勝ち誇ったような表情で見ている。

「?…俺は百合が好きだ」

俺は流の言葉に動揺してしまい、目をそらしてしまった。

「?、流。本人の気持ちを無視しちゃだめだからな。」

俺はうなずき、流に向かい言った。

「流。今までどうり友達なのは変わらないけど、俺の気持ちも変わらないからね」

流は了承したのか部室に向かい歩みを再開した。

何この名前!! (後書き)

新しいキャラが3人で増したねえ。

追々みなさんに紹介しようと思います。

それでは。

皆さん、読んでくださってありがとうございます!!

部活は何にしようかな？（前書き）

こんにちは。

そろそろ「あいつ」の正体が出せるといいな。

では楽しんでいただけるのをかけるように頑張ります。

部活は何にしようかな？

- - - - 百合視点 - - - -

抱きついてきた先輩方は笑いながら私たちの背中に回っていた手を離した。

「ゴメンナサイ。急に抱きついちゃった」

黒い髪が印象的な先輩が言った。美…美人だ。

すると可愛いと思わせる印象がある先輩がフーと息を吐いて言った。

「でも、来たのが人間で良かった。」

？

人間で良かったって何事？

黒髪の先輩が慌てて訂正した。

「ち…違うでしょう！先生じゃなくてでしょう。もう」

きれいな黒髪が揺れた。…？

誰かに似ている。もしかして詩音？まさか…ね。

「んによ！！間違えちゃった。」

可愛いと思わせる先輩が言った。んによとは？

んによ先輩はニコツと笑った。んによ先輩ははつと我に返った。

「そういえば自己紹介してなかったね。私は市川^{いちかわ}美和^{みわ}だよ。」

「あたしは笹宮^{ささみや}詩庵^{しあん}です。」

私の頭の中で黒髪の先輩から笹宮詩庵先輩。可愛いと思わせる先輩ことんによ先輩は市川美和先輩。

詩庵…？偶然なのかな？詩音と名前が似ている。

私がそんなことを考えていると雪亜が

「私は1 - 3の葉月雪亜です。」

と自己紹介した。それに続いて私と実湖も

「同じく1 - 3の佐藤百合です。」

「1 - 5の椎名実湖です。」

と自己紹介した。
“キー”
扉が開いた。

部活は何にしようかな？（後書き）

これから寝ますので。

おやすみなさい ^ ^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1911x/>

私たちのcolor

2011年11月10日00時07分発行